

平成 27 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	長崎玉成高等学校
-------	----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

☐	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
☐	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
☐	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
学校法人玉木学園	高等学校	全日制	ながさきぎよくせい 長崎玉成高等学校

2 研究課題

高等学校普通科（全日制）における就労支援の研究

自己理解・他者理解と現実のギャップそして就業体験の不足がある中で、全日制普通科としてできる限りの研究・実践を行い、自らの進路決定に繋ぐことを目的とする研究。

3 研究の概要

平成 21 年度に開設した普通科共育コースにおける、発達障害の可能性が見られる卒業生（平成 24～26 年度）は 41 名。平成 26 年度在学の生徒（3 学年合計）は 41 名という状況であった。本校におけるこれまでの研究・実践の中で不足していた「企業開拓・連携強化・職業体験→自己理解・他者理解」を目的に、就労支援コーディネーター・職業訓練指導員の配置を行い本校職員と連携しながら就労支援の取り組みを行った。

（1）就労支援コーディネーターの配置

就労支援コーディネーターは生徒の特性を考慮し、①障害者対象求人を出している会社で、資格不問、またはパソコン操作など学生でも対応可能な企業。②障害者求人を出している企業と同系統の企業。③タウンワークなどの求人情報誌を参考。④長崎若者就職応援団の賛同企業。⑤ビル管理会社・パン製造会社・お菓子製造会社、を選び訪問を行った。

（2）職業訓練指導員の配置

平成 26 年度までの職業訓練（玉成ワーク社・ベーカリー社）に加えて、平成 27 年度は本校独自の「面接検定」作成・実施を行った。

（3）校内模擬会社「玉成ベーカリー・ワーク社」における総会・新入社員研修会。

（4）職員研修

取り組みの推進・充実において職員研修は大事な要素である。すでに標準装備されている「入学前親子面談・中学校訪問・個別の教育支援計画作成」に加えて各種学会・セミナーへの視察を実施、さらに全職員参加による「就労支援ネットワーク会議」を

年2回実施した。

4 研究の成果

- ① 就労支援コーディネーターの配置により、障害者雇用の意識が高い企業に249社訪問を行うことができ情報交換、そして本校の取り組みを知っていただくことができた。
- ② 職業訓練指導員の配置により面接検定の作成・事前指導・実施・検証等を行うことができた。また校内模擬会社の指導・自己分析等も行うなど、自己理解の向上に繋がった。
- ③ 外部協力者との連携により、医療・労働・福祉との連携した取り組みを行うことができた。また特別支援学校からの異校種間交流にて「1日研修」を実施。その体験を基に本校の事例検討会にて適切な指導助言をいただいた。

5 課題と今後の方策

「企業開拓」から見てきたことは、より地域に根ざした取り組みを行うこと、つまり全日制普通科に発達障害の傾向が見られる高校生を育てている学校があるということを知ってもらうことが挙げられる。

その為には、①今後さらに、地域に出での活動を増やす取り組みを行う。②安心と少しの覚悟を持って社会に出て行くには、保護者・本人の自己理解・障害理解が必要となってくるが告知を躊躇う保護者は実に多い。保護者が不安なのである。インクルーシブな社会実現までには、日本全体として取り組みが不十分であることは歴然とした事実である。そのような中で、自分の特性を客観的に理解し受け止め、社会に出て行くためには青年期に「得意なこと」を見つけ、できる限りその中身を豊かにしておくことが必要である。

これまでは学校内の取り組みに力点を置いていたが、長崎市内の企業の障害者に対する意識の向上が見られる今こそ、今後はより学校外へ広げていきたいと考える。